

コンゴ(民)月例報告
政治関連
2017年6月

主な出来事

●3日付独 Spiegel 誌(インターネット版)は、カビラ大統領へのインタビューを報じた。「カ」大統領が外国メディアのインタビューを受けるのは5年ぶり。インタビューで「カ」大統領は、「今年末までの選挙実施に関し、自分は何も約束していない」等と発言した。

●10日、キンシャサ市マテテ・コミュンにある検事局とモンアンバ警察支所の留置所が、武装した何者かに襲撃され、勾留者3名が逃走した。

●11日、北キブ州ベニ市の Kangwayi 刑務所が何者かによって襲撃され、11名(うち治安当局8名)が死亡した。勾留されていた966名のうち、900名以上が脱走した模様。パルク州知事は、ベニ地区と隣接するブテンボ地区で、18:30以降の外出禁止令を出した。

●12日、カビラ大統領は陸路でカサイ州チカパ市を訪問した(走行距離は863キロ)。厳しい状況にある家族らを励まし、様々な階層の住民と会見を行うのが目的。

●16日、シェ・オキトウンドウ副首相兼外務・地域統合大臣は、昨年8月から行われていた、同省職員によるストライキの終了を呼びかけた。これにより、ストライキを行っていた職員らは、19日から通常業務に戻った。

●22日、RFI は、コンゴ(民)当局が、ソニア・ロレイ記者の特派員認証の更新を拒否したとのコミュニケを発表した。

●29日、キンシャサ市 Funa 地区の警察署が、銃や銃砲で武装したグループに襲撃され、警察署内の留置所から数人が脱走した。

●30日の独立57周年記念日に際し、29日、大統領府はツイッター上に、カビラ大統領のメッセージを掲載、「2017年6月30日をともに静寂の中で深く想いをなして祝うことを求める」と述べ、「健康上の理由により、今年は、伝統的なやり方でメッセージを伝えられないことを残念に思う」と伝えた。また、例年、独立記念日当日に行われる軍事パレードも今年は行われなかった。

1. 内政

(1)独 Spiegel 誌によるカビラ大統領へのインタビュー

・3日付独 Spiegel 誌(インターネット版)は、カビラ大統領へのインタビューを報じた。「カ」大統領が外国メディアのインタビューを受けるのは5年ぶり。インタビューで「カ」大統領は、「今年末までの選挙実施に関し、自分は何も約束していない」等と発言した。なお、同インタビューは英語で行われた。

(2)ヌンビ前警察長官への叙勲

・「カビラ・ルブンバ国民栄誉賞(Heros Nationaux KABILA-LUBUMBA)」の叙勲者として承認されたコンゴ(民)国家警察幹部8名のリストに、2010年6月に人権活動家のフロリベール・チェベヤ氏らが殺害された事件の最重要容疑者であるジョン・ヌンビ前警察長官の名前があることが判明した。同決定は、5月16日付大統領令によるもので、8名の警察官は、「grand officier」に昇格する(6日付 AFP)。

(3)国連専門家を殺害したとされる2名の公判が開始

・5日、3月に、国連安保理コンゴ(民)制裁委専門家2名(Michael Sharp 氏と Zaida Catalan 女史)が、中央カサイ州チンブルで殺害された事件に関し、犯人とされる16名のうち、2名(Evariste Ilunga Lumu(未成年)と Mbayi Kabasele(30歳)、両名ともに民間人)の公判が、同州カナンガ市の軍事法廷で開始された。他の14名は逃亡中(5日付 RFI)。

(4) キンシャサ市における警察・留置所等の襲撃・脱走騒ぎ

・10日、キンシャサ市東部の住宅密集地マテテ・コミュニンにある検事局とモンアンバ警察支所の留置所(両留置所は同じ敷地内にある)が、武装した何者かに襲撃された。勾留されていた11名のうち3名が逃走した模様。コンゴ(民)国家警察(PNC)のムワナムプトゥ報道官は、犯人グループは先ず、モンアンバ警察支所を襲撃したものの反撃され、マテテ検事局の留置所を襲撃、33名の勾留者のうち3名が脱走したと発表した。この騒ぎによる警察と犯行グループの交戦で、警察官1名が死亡、4名が重傷を負い、警察車両11台とバイク3台が放火され、4台が犯行グループによって持ち去られた。

・29日、キンシャサ市 Funa 地区にある警察署が、銃や銃砲で武装したグループに襲撃され、警察署内の留置所から数人が脱走した。治安当局との交戦で犯人グループ側に1名の死者が発生、3名がとらえられ、取り調べを受けている。また、警察官4名が負傷した(うち1名の警察官は、翌日に死亡した模様)。

(5) 外務省職員によるストライキの終了

・16日、シェ・オキトウドゥ副首相兼外務・地域統合大臣は同省職員を前に、昨年8月から断続的に行われていた、同省職員(幹部を除く)によるストライキの終了を呼びかけた。ストライキの理由の一つである、2003年以降行われていない職員の配置転換や昇進等について、「シェ」大臣は、問題解決の特別管理委員会の設置を決定した。また、パスポートとビザから得る収入の分配については、それぞれ1件毎に10ドルのボーナスが外務省に配分される大臣令(arrete)を出すと発表した。これにより、ストライキを行っていた職員らは、19日から通常業務に戻った。

(6) 司法当局がカトゥンビ前カタンガ州知事に事実上の帰国命令

・20日、カバンゲ共和国検事長は、昨年5月、外人傭兵雇用に関する件で調査中の身であるものの、海外での治療のためにカトゥンビ前カタンガ州知事が出国を許可された件に関し、カトゥンビ氏の事実上の帰国を命じる書簡を、同氏の弁護を務めるムケンディ弁護士会会長に送った。同書簡によると、カトゥンビ氏は、出国許可の条件となった守秘義務を果たさなかったため、許可を取り消し、予審裁判官のもとに出頭することが求められた。

(7) カビラ大統領による独立記念日のメッセージ

・30日の独立57周年記念日に際し、29日、大統領府はツイッター上に、カビラ大統領のメッセージを掲載、「2017年6月30日とともに静寂の中で深く想いをなして祝うことを求める」と述べ、「健康上の理由により、今年は、伝統的なやり方でメッセージを伝えられないことを残念に思う」と伝えた。また、例年、独立記念日当日に行われる軍事パレードも今年は行われなかった。

(8) 野党の動向

ア 故エチエンヌ・チセケディ UDPS 党首の遺体の帰国

・7日、カブヤ UDPS 報道官は Radio Okapi に対し、故エチエンヌ・チセケディ UDPS 党首の遺体の帰国に関する政府とチセケディ家の合同委員会を設置したと語った。

イ シディク SRSG の調停による「Rassemblement」とカビラ政権の会談

・8日、野党プラットフォーム「Rassemblement」(ただしフェリックス・チセケディ派)はコミュニケで、7日、国連安保理決議第2348号がシディク国連事務総長特別代表(MONUSCO 代表)に委ねた調停ミッションの枠組みで開催した会談に参加、同会談にはカビラ政権の代表も参加したと発表した。

た。

ウ UDPS が党員19名を除名

・26日、UDPS はチバラ首相に近い党員19名を除名処分とした。3名の現大臣(カピカ国家経済相、イルンガ保健相、マディヤ文化・芸術相)が含まれている。これに加え、バディバンガ内閣に財務副大臣として入閣していたロセケ医師も除名処分とした。

2. 外交

(1)カビラ大統領の南ア訪問

・25日、カビラ大統領は南アを訪問し、ズマ大統領と会談した。同会談でカビラ大統領は、「コンゴ(民)における選挙実施のための対話は連続的なものである」と述べたが、選挙日程については語らなかった。今回の南ア訪問の主な目的は、インガ第3ダムを中心とするエネルギー関連プロジェクトへの南アの協力の再確認と、経済開発における2国間関係の強化。

(2)シェ・オキトウ副首相兼外務・地域統合大臣の外国訪問

- ・1日、第44回国連中央アフリカ治安問題常設諮問委員会に出席のためカメルーンのヤウンデを訪問。
- ・6日、タンザニアを訪問し、マグフリ大統領にコンゴ(民)の政治状況や合意フォローアップ国家評議会(CNSA)設置に関する状況を説明、2国間関係について協議した。
- ・6日、ザンビアを訪問し、ルング大統領と、2国間関係の強化について協議した。
- ・15日、セネガルを訪問し、サル大統領に、カビラ大統領の親書を手渡した。
- ・19日、コートジボワールを訪問し、ワタラ大統領と、2国間関係の強化と政治プロセスへの支援について協議した。
- ・25日、南アを訪問し、カビラ大統領とともに第10回南ア・コンゴ(民)二国間委員会に出席した。

3. 東部及び大湖地域情勢

(1)北キブ州ルベロ地区で赤十字国際委員会(ICRC)のスタッフ2名が誘拐

- ・7日、北キブ州ルベロ地区キルンバで人道支援活動を行っていた赤十字国際委員会(ICRC)のスタッフ2名が、武装した何者かに車列を襲われて誘拐された。これを受け ICRC は、両名の即時無条件解放を求めるとともに、新たな指示があるまで、同地区での活動を中断すると決定した。
- ・15日、誘拐されていた ICRC のスタッフ2名は、無事解放された。

(2)北キブ州ベニ市における刑務所の襲撃・脱走騒ぎ等

- ・11日、北キブ州ベニ市の Kangwayi 刑務所が何者かによって襲撃された。パルク北キブ州知事によると、治安当局と犯行グループ側の交戦により、11名(うち治安当局8名)が死亡、同刑務所には966名が勾留されていたが、残っているのは30名のみである。同知事は、ベニ地区と隣接するブテンボ地区において、18:30以降の外出禁止令を出した。
- ・17-18日、ベニ市でコンゴ(民)国軍とマイマイ(自警団的な性格を持った武装集団)の交戦が発生、10名近くが死亡した(22日付 AFP)。
- ・22日、ベニ市で、マイマイが軍事法廷を襲撃し、国軍との間で銃撃戦が発生、マイマイ7名が死亡、8名が重傷を負った。マイマイ側は、軍事法廷と刑務所の子収容棟の留置人を解放しようとしたもので、襲撃者の中には11日にKangwayi 刑務所から脱走した留置人が含まれていた(22日付 AFP)。

4. その他地域情勢

(1)カビラ大統領のカサイ州チカパ市訪問

- ・12日、カビラ大統領は早朝にキンシャサを発ち、陸路にてクウィル州キクウィット市を訪問後、夜、

カサイ州チカパ市に到着した(走行距離は863キロ)。ラマザニ・シャダリ副首相兼内務・治安大臣によると、今回のチカパ市訪問は、5月のカナンガ市とムブジマイ市に続き、厳しい状況にある家族らを励まし、様々な階層の住民と会見を行うのが目的。

・13日、カビラ大統領はチカパ市で、州議会議員、伝統的酋長(chefs coutumiers)らと会見し、また、州の治安委員会を主催した。

5. その他

(1) 271の NGO 団体が国連人権理事会に対し、カサイ地域の暴力的状況に関する国際的調査を要求

・1日、VSV(Voix des sans voix)、LUCHA(Lutte pour le changement)、ヒューマン・ライツ・ウォッチ(HRW)等、271の国内及び国際 NGO によって構成される団体は国連人権理事会に対し、コンゴ(民)中部カサイ地域の暴力的状況の国際的調査を早急に開始するようコミュニケを発表した。

(2) アナン元国連事務総長とアフリカの元国家元首によるコンゴ(民)政府への緊急アピール

・15日、コフィ・アナン元国連事務総長は自身の基金 Kofi Annan Foundation のホームページに、「コンゴ(民)の平和的政権移行と民主主義」と題する緊急アピールを掲載、昨年12月31日の政治合意の実施に向けた努力を倍加するよう呼びかけた。同アピールはアナン氏に加え、アフリカの元国家元首9名による連名。

(3) アダマ・ディエン国連事務総長特別顧問がコンゴ(民)を訪問

・19日、アダマ・ディエン(Adama Dieng)国連事務総長特別顧問(ジェノサイド防止担当)がコンゴ(民)に到着した。滞在は24日までで、中央カサイ州カナンガ市とカサイ州チカパ市を訪れた。

・24日、同顧問は記者会見で、カサイ地域の紛争について、「政府は軍事行動対応を早急に削減し、関係者による対話を進め、紛争の非暴力化を推進すべき。カサイ地域ではジェノサイドは発生しておらず、あるのは暴力的状況で、これを止めるべき」と述べた。

(4) ロレイ RFI 特派員の認証が未許可

・22日、RFI は、コンゴ(民)当局が、ソニア・ロレイ記者(Sonia ROLLEY、仏人)の特派員認証の更新を拒否したとのコミュニケを発表した。同コミュニケによると、同記者の特派員認証が切れる5週間も前に更新の申請を行ったものの、3か月近くを経た現在も回答が無く、当局の沈黙は拒否の意味と受け取っていると述べた。

・メンデ・メディア大臣はこれに対し、「ジャーナリストのビザは政府の委員会が担当しており、適切な時期に回答する。また、本件はビザの拒否を意味するものではない」と回答した。